

創立20周年を経て 新しい歩みを始めました。 地域を元気にする、 地域から応援してもらえる クラブづくりを目指します。

株式会社ベガルタ仙台
代表取締役社長

にしかわ よしひさ
西川 善久氏

プロフィール

昭和23年11月1日生まれ。東京都出身。血液型A型。
早稲田大学政治経済学部を卒業後、昭和47年㈱河北新報社に入社。石巻総局長、報道部長、編集局長などを経て、常務取締役編集本部長、平成23年3月からは三陸河北新報社代表取締役社長も兼任。平成25年3月常務取締役編集本部長を退任。平成26年3月に三陸河北新報社代表取締役を退任し、同年4月より現職。趣味は溪流釣り。「溪流釣りを始めて、かれこれ40年くらいになります。新聞社勤務時代は、仕事柄、呼び出しが掛かってもすぐに戻ってこられるようにと、あまり遠くには行けませんでしたが、釣りはいい気分転換になりますね。仕事のことをバツと忘れられます」と笑顔で話す。



大切なのは 気持ちの切り替え

「昨年4月に社長に就任されて1年あまりが経過しましたが、現在の心境をお聞かせください。」

この職に就く前まで新聞社にいましたので、プロサッカーのクラブ運営という全く異なる仕事を仰せつかったときは、きつとギャップを感じるのだろうと思っていました。しかし、この1年を振り返ってみると、意外にも肝心なところに共通点があることに気が付いたんです。それは「切り替えの大切さ」です。前の仕事では他社との取材競争の中でニュースをつくり、その結果が毎日の紙面に出るわけです。負けたとしても落ち込んでいる時間はありませんので、悔いずに前を向く。この気持ちの切り替えが身につけていたことで、今もチームの勝敗に左右されず、落ち着いて自分の仕事ができるのではないかと思います。

「改めて社長という立場で試合を観戦することで、新たな発見はありましたか。」

白幡前社長からのアドバイスで、試合は必ずベンチの斜め後ろで観戦しています。そこからだとベンチの動きもサポーターの表情もよく見えるんです。サッカーはメンタルな要素がプレーを左右するスポーツであるということ、そして、サポーターの応援がどれだけ選手たちの励ましになっているかがよく分かり、ファンやサポーターが「12番目の選手」と

いわれる意味を、改めてかみしめた1年でした。また選手同士がお互いを奮立たせるプロセスや、彼らがピッチに立ったときの緊張感みなぎる表情が見られるのは、今の立場ならではの醍醐味でもありますね。

安定した経営を目指し、 まちづくりに貢献

「今シーズンのチーム運営について考えをお聞かせください。」

チームに関しては、渡邊晋監督に全面的に任せています。彼は3年計画でタイトルを狙おうという目標を打ち出しており、今年を「土台づくりの年」と位置づけています。私たちは渡邊監督が仕事に集中できる環境を整えること、言い換えればフロントとして安定した経営をすることが最も大切であると思っています。昨年は約1億円の赤字を出していますので、今年は経営を黒字にし、来期もよりチームの強化に力を入れられる財政状況にすることが目標です。そのために、現在、東北はもちろん、関東圏についても新たなスポンサー獲得に動いています。震災から5年目になる今だからこそ、復興支援に力を貸したいという企業もいらつしゃって、その思いに添えるためにも、応援しがいのある成績を保っていかねばいけないと思っています。また、ベガルタは「被災地の希望の星」として、これからも独自の震災復興支援活動を継続して参ります。



今シーズンから2ステージ制となったJ1リーグ。ベガルタ仙台は終盤の巻き返しもあり第1ステージで7位の成績を収めた。今後もエンプレムの鷲のように力強く飛翔していくチームづくりを目指す。

具体的には、子どもたちをスタジアムに招待する「ドリームプロジェクト」がそのひとつです。さらに今シーズンからは、試合直前にスタジアムで「復興ライブ」を開催し、FMラジオのネットワークを通じて県内全体にその様子を放送するという取り組みもスタートしました。「復興キャラバン」と銘打ち、年間で宮城県下40校あまりの小・中学校を訪問してサッカー教室を実施し、子どもたちを元気づけようという活動も新たに始めています。

— 仙台・東北のまちづくりや活性化には、どのように取り組んでいこうかと考えていますか。
ホームタウン活動や地域とのふれあいを、できるだけ多く行うようにしています。ファンサービスには渡邊監督もずいぶん熱心で、2月のキャンプのときには監督の発案で、選手のメッセージを毎日

インターネットで配信し、ご好評いただきました。

J1リーグには、全国各県にチームをつくろうという構想がありますが、現在、東北には青森県を除く5県にチームがあります。J1リーグはベガルタ仙台とモンテディオ山形、その他はJ3リーグと、所属するリーグは違いますが、それぞれが地元を元気にする活動を行っています。今後はお互いに連携して、東北全体の活性化に寄与していきたいと思っています。

特に、レディースのチームを有しているのは東北ではベガルタだけですし、レディースはトップチームと比較すると所帯が小さく、試合をするスタジアムなどの条件も厳しくないで、より機動的に地域の活性化に協力できるのではないかと思います。これまでも角田や石巻、福島でも試合をしてきましたし、今シーズンはミニキャンプを初めて石巻で実施しました。今後も、少しでも地方のにぎわいづくり、交流人口を増やすお手伝いをしていきたいですね。

クラブ全体を強くする 組織変更を実施

— 今後の抱負をお聞かせください。
昨年、創設20周年という節目を迎えました。今年は新たな20年に向けての第歩を踏み出す年と位置づけています。そこで、クラブ全体の力をアップしていくと、組織変更を行いました。そのひとつが、トップチームの強化部門と育成

部門の一体化です。これは育成部門から上がってきた選手が、トップチームではなかなか活躍できないという現実を打破するために行った改革です。今シーズンはユースチームからトップチームに上がった茂木駿佑選手が開幕戦のスタメンに名を連ねましたので、こうした流れを強めていこうと考えています。こうしてチームの魅力が高まってくれば、地域の注目度もさらにアップしてくると 생각합니다。

ベガルタ仙台は、官民が一体となって、地域のためにということ誕生したクラブです。皆さんには「私が支えるんだ」という意識を持っていただけるとありがたいですね。私たちも、皆さんが支えるに値するチームになれるよう、努力していきたいと思っていますので、ぜひスタジアムに「ユニホームを着て」応援に来て、ユースタを「ベガルタゴールド」に染めてください。

【概要】

株式会社ベガルタ仙台

代表者：代表取締役社長 西川 善久

設立：1994年10月

資本金：453,841,122円

事業内容：選手がよりよいパフォーマンスができるように最高の環境を整え、育成にも力を入れながら、地域に密着した活動を行っています。

所在地：仙台市青葉区本町3-6-16 漁信基ビル4F

TEL. 022 (216) 1011

ホームページ：http://www.vegalta.co.jp

街

やさしい気持ちで暮らせるように……。

たくさんの方が集まり、働き、笑い、泣き、そして暮らしてゆく空間、『街』…。そこで人々が明るく、健康に、そして何よりやさしい気持ちで暮らせるように、快適な都市環境をつくって行かなくては…。私たちはそう考えています。私たちは青葉環境保全です。

より良い環境をめざす
AOBA 青葉環境保全

本社/仙台市若林区蒲町19-1

電話(022)286-3161(代)